

事業名 旭竜子どもの居場所づくり事業

事業主体 名称：旭竜学区連合町内会
住所：岡山市中区中島126-9

事業実施場所 旧岡山市立旭竜幼稚園

～事業を始めるにあたって～

<実施理由：旭竜小学校区の現状とこれから>

旭竜地区は岡山駅から東へ二駅の高島駅が最寄りという利便性の高い地域だが、旭竜小学校（高島中学校区）の児童数が現在約150人と全盛期の五分の一に落ち込んでおり、岡山市内でも高齢化率が特に目立つ地域。居住年数が浅い子育て世帯も多く、地域の情報に乏しい孤立しがちな未就園児親子の居場所をつくり、そして妊娠期から近所に知り合いを増やしておくことで、地域で安心して子育て出来るようになる。高齢者世代と子育て世代をつなぎ、多世代が住みやすい環境を整えることが、少子高齢化問題の改善に繋げる。

<目的：乳幼児親子、子供たちの居場所>

天候に左右されず、室内で体を動かして子どもたちが遊べる場所が近隣にはなく、新型コロナ以降「うるさいと苦情が入った。」「家の前で遊んでいて通報された。」という声が聞こえてくるようになった。

長期休みなどでも安心していられる居場所の必要性を感じている。感染症対策を徹底して、多様な人と関われる居場所を提供し、体験活動などを実施することによって、未来を担う子供たちが健やかに成長する機会を作り、子育てしやすい環境づくりに貢献することが最大の目的。

<休眠資源活用>

住民の思い入れもある閉園した幼稚園を実施場所にすることで、持続可能な社会にむけ地元民間団体、地域の方々が協力し合い、地域住民が運営する良いモデルになる。岡山市広報YouTubeの中区代表として取り上げられるなど、休眠資源活用の先駆け事例になってきている。

<3rd seasonへ 昨年度を振り返って>

令和4年度は本事業を受託させていただき、地域にとって大変有意義な取り組みができました。事業終了時には、居場所に遊びに来てくれていた小学生や地域の方から、継続してほしいという声をいただいています。そうめん流しやクリスマス会などでは地域の方にご協力いただき、コロナ禍で縮小されていた体験活動ができました。昨年度の実績と教訓を活かし、引き続き地元小学校園にも協力してもらいながら、発展させていきたいと考えています。

乳幼児期は親と一緒に遊びに来ていた場所に、小学生になり、一人で立ち寄れるようになる。そして、中学生になったら、ボランティアスタッフとして参加する。高校生、大学生は、より専門的な興味を持って関わってもらう。そんな子どもの成長に合わせた地域との関わりができる居場所づくりを目指します。若者が日常的に小さな子どもと接する経験は、人生のキャリアを考える一つの判断材料になる。

～事業実施内容～

旭竜子どもの居場所づくり 事業 ※仕様書上の事業名

<第1回>

① 事業名 子どもの居場所づくり(旭竜子どもの居場所 3rd season)

② 参加人数 全11回延べ大人73人、子ども133人、合計206人

- ① 7月10日(月) 大人2人、子ども5人
- ② 7月24日(月) 大人5人、子ども5人
- ③ 7月31日(月) 大人2人、子ども3人
- ④ 8月10日(木) 大人14人、子ども22人
- ⑤ 9月11日(月) 大人7人、子ども6人
- ⑥ 10月18日(水) 大人7人、子ども17人
- ⑦ 11月15日(水) 大人5人、子ども19人
- ⑧ 11月29日(水) 大人4人、子ども18人
- ⑨ 12月11日(月) 大人4人、子ども10人
- ⑩ 12月26日(火) 大人9人、子ども13人
- ⑪ 1月31日(水) 大人14人、子ども15人

③ 日 時 令和5年7月～1月(全11回)

7/10(月)、7/24(月)、7/31(月)、8/10(木)、9/11(月)、10/18(水)、11/15(水)

11/29(水)、12/11(月)、12/26(火)、1/31(水)

9:30～12:00/14:00～16:30(半日開催有)

④ 場 所 旧岡山市立旭竜幼稚園

⑤ 内 容 乳幼児親子から小学生、中学生の子どもたちがのびのびと自由に過ごせる居場所として、「旭竜子どもの居場所」を開催しました。乳幼児親子は午前中、小学生は放課後を中心に遊びに来ていました。地域の方が畑や施設手入れをボランティアでしてくれており、子ども達との交流があり、畑では野菜の収穫などを体験しました。



⑥ 活動の成果等 旭竜子どもの居場所を通じて子ども達と交流した地域の方が子どもの顔や名前を覚え、通学路等で会話する様子が見られた。

参加者の方からは、子どもを連れて遊べる場所が近くにあると助かる、との声をいただいた。

広い遊戯室をハイハイで、たくさん動くことができ、満足そうにしている子どもの姿があった。小学生達は友達と外遊びや室内遊びで楽しんでいた。

<第2回>

- ① 事業名 旭竜子どもの居場所 ふれあい講座
- ② 参加人数 全5回延べ大人38人、子ども111人、合計149人
- ① 7月24日(月) 大人15人、子ども37人
 - ② 7月31日(月) 大人15人、子ども27人
 - ③ 8月10日(木) 大人0人、子ども19人
 - ④ 12月26日(火) 大人0人、子ども18人
 - ⑤ 1月31日(水) 大人8人、子ども10人
- ③ 日時 7/24(月)10:00~12:00
7/31(月)1部 10:30~11:30
2部 12:00~13:00
8/10(木)10:30~11:30
12/26(火)10:00~11:30
1/31(水)15:00~16:00
- ④ 場所 旧岡山市立旭竜幼稚園
- ⑤ 内容 7/24(月)くむんだー/新見木のおもちの会
7/31(月)そうめん流し大会
8/10(木)自由研究応援プログラム 砂鉄スライム
12/26(火)冬休みの宿題をやろう!書き初め
1/31(水)昔あそび交流会



- ⑥ 活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。
- 全てのイベントにおいて家では出来ない体験を実施。親子共に満足度が高かった。子ども達が自分の力で自分達で考え活動できることで、生き生きとしたいい笑顔がたくさん見られた。

<協働実施推進事業 子育て相談>

- ① **参加人数** 全7回延べ大人18人、子ども12人、合計30人
- ① 7月10日(月) 大人1人、子ども0人
 - ② 8月10日(木) 大人4人、子ども5人
 - ③ 9月11日(月) 大人1人、子ども0人
 - ④ 10月18日(水) 大人2人、子ども1人
 - ⑤ 11月15日(水) 大人3人、子ども3人
 - ⑥ 12月11日(月) 大人3人、子ども3人
 - ⑦ 1月31日(水) 大人4人、子ども0人
- ② **日 時** 7/10(月)、8/10(木)、9/11(月)、10/18(水)、11/15(水)、12/11(月)、1/31(水)
10:30~12:00
- ② **場 所** 旧岡山市立旭竜幼稚園
- ③ **内 容** 旭竜子どもの居場所 子育て相談
1人30分の時間枠を作り予約制で個別相談を行なった。
- 7/10(月)
助産師 橋本早矢香
産前産後・妊活など 母乳育児や妊娠出産の悩み
- 8/10(木)
栄養士調理師 光岡明里
離乳食など 乳幼児期の食に関する悩み
- 9/11(月)
児童発達支援管理責任者 たなかともこ
「集団になじみにくい」「うちの子ちょっと変わってる?」という子の子育ての悩み
- 10/18(水)
助産師 シヤノン香織
乳幼児期・思春期の性の悩み
- 11/15(水)
歯科衛生士 中島加奈
「虫歯」「歯並び」「話す」「食べる」などお口に関するお悩み全般
- 12/11(月)
理学療法士 濱田由紀
赤ちゃんの発達、抱っこおんぶ等のお世話、産前産後ママの身体のお悩み
- 1/31(水)
居場所づくりネットワーク INE(いいね) 鈴木環
外国人向け座談会。日本での子育ての悩み、日本で生活するにあたり子どもの心配事等

⑤活動の成果等 ※感想、事業内容の詳細などでも可。

相談事業は予約をお断りすることもあるくらい、反響が大きかった。「身近なところで」「気軽に話せる」という広場で相談できるというのは悩みを持つ家庭にとってとても大きいのだと感じた。



<旭竜子どもの居場所づくり事業 ボランティア体験会>

- ① 参加人数 中学生3人
- ② 日 時 令和5年7月31日(月) 9:30~11:30
- ③ 場 所 旧岡山市立旭竜幼稚園
- ④ 内 容 高島中学にボランティア募集チラシを配布。
そうめん大会時に参加してもらい、準備開催中の手伝い、地域の方や子ども達と関わって貰った。ボランティア証明書を発行した。

- ⑤活動の成果等 小さい子どもと関わりたい子は赤ちゃんを抱っこしてふれあっていた。
祖父母世代のそうめん流しお手伝いスタッフとも関わり、世代間交流ができた。
中学生達は自分のできることで周りの人が喜んでくれる体験が得られた。



<旭竜子どもの居場所づくり事業 子ども主体の遊び場を考える>

- ① 参加人数 大人6名 (学区主任児童委員 1名 一般 4名 スタッフ1名)
- ② 日 時 令和5年11月29日(水) 10:00~11:00
- ③ 場 所 旧岡山市立旭竜幼稚園
- ④ 内 容 岡山市子どもセンターのプレーリーダー久保田将裕さんに今と昔の遊びの環境の違い、子どもが何を「やってみたい」と思っているのかと、一歩下がってみる、など、幼少期の遊びの重要性を聞き参加者で考えを共有した。

- ⑤ 活動の成果等 (参加者の感想)
- ・無条件に外で遊んでいたことを思い出し、子どものやってみたい！を見守れる大人でいたいなと思いました。
 - ・心が追いつかない大人がふえているという話があるなかで、小さい頃にいかに遊んだか、楽しんだか。遊びが軸に全ての生活に入っていく事が、やっぱり大切！おはなし聴けてよかった！

～事業を終えて～

○事業実施による効果

- ・様々なイベントや居場所開設を通して、地域に顔見知りが増え、普段からの挨拶や広場で繋がった子どもたち同士で遊ぶ姿が見られる。
- ・子ども達をどこで遊ばせればいいかわからない、子育てに悩んでいるなど、気軽に話しをしてくれる場になっている。いろんな世代の方が関わってくれており、地域全体で子どもを見守る環境づくりに貢献した。
- ・岡山市の休眠資源活用の実績づくり。社会貢献事業を行う NPO が地域の活動を発信することで、持続可能な社会にむけ、話題性もあり、旭竜地区の地域活性につながっている。元幼稚園という地元住民にも思い入れがある施設を活用するので、施設整備など協力者が増えていく。よって、行政の負担を減らせる上に子どもの居場所づくり事業が開催可能なことがわかった。

○まとめ

旭竜子どもの居場所も3年目になった。今年度も妊娠期の方へのリーチが難しかった。出産後の親は赤ちゃんの扱いや生活に戸惑いを感じ、妊娠中から地域や相談機関とつながっていれば良かったと考える。しかし、妊娠中は出産後のイメージがわきにくく、妊婦さんが民間の運営する子どもの居場所に出向いてもらうためにはより工夫がいる。

旭竜学区には公民館や児童館がない。旧幼稚園で開催する旭竜子どもの居場所という、歩いていける距離に乳幼児親子や子どもが集える環境は少しずつ地域の方に周知されてきた。地域外、市外からの参加者も増えており、地域が子育てを見守るという姿勢は、乳幼児親子・子ども達に安心感を与えている。

今後も、子育て制度や SNS で情報を得ることが日常的な昨今の子育て世帯のニーズに沿って、子ども達、親たちの安心できる居場所を開催していきたい。